新着案内　各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『アジアに生きるイスラーム』笹川平和財団／編　イースト・プレス　2018.4　167.2/ｻｻ184/

中東がイメージされやすいイスラームですが、現在ムスリム（イスラームを信じる人々）の約６割はアジア・太平洋地域に居住しているとされます。この本は、東南アジア・南アジアの８カ国におけるイスラームの現状を実地調査し、まとめたものです。ムスリムが多数派の地域・少数派の地域の状況の違いはもちろん、同じ国の「敬虔な」ムスリムであっても、地域ごとの学び方の違いから得ているイスラーム知識や世界観が異なっている事例など、アジアにおけるイスラームの多様性を感じることができる一冊です。

『太陽系観光旅行読本　おすすめスポット&知っておきたいサイエンス』オリヴィア・コスキー, ジェイナ・グルセヴィッチ／著　原書房　2018.2　538.9/ｺｵ182/

宇宙旅行の準備から始まり、身近な天体・月や、水星から海王星までの惑星とその衛星、そしてはるか遠くの冥王星まで。特徴やアクセス、おすすめの観光スポットなどを紹介する、まさしく「太陽系の観光旅行ガイドブック」です。もちろん、描写には一部フィクションを含みますが、元となるデータは最新の科学研究に基づいています。過酷で心躍る、刺激的な観光旅行ツアーのシミュレーションにいかがでしょう。

『ヒューマンライブラリー　多様性を育む「人を貸し出す図書館」の実践と研究』　坪井 健／編著　明石書店　2018.2　361.8/ﾂﾂ182/

ヒューマンライブラリーとは、生きている「人を貸し出す図書館」です。読者は、障害者やホームレス、性的少数者等の背景をもつ「本」を借り、対話を通してコミュニケーションを図ります。この取組みは、2000年にデンマークの音楽フェスで始まりました。

本書は、第一部において日本及び海外におけるヒューマンライブラリーの実践事例を報告し、続く第二部でその意義などを分析・研究しています。ヒューマンライブラリーに関わっている多くの著者による論考から、この取組みの可能性を感じることができます。

児童・児童図書研究

『コンピューターってどんなしくみ？』　村井純、佐藤雅明／監修　誠文堂新光社　2018.4　007/ｾ

創刊から90年以上続いている雑誌『子供の科学』を発行している誠文堂新光社から、今年４月より単行本の新シリーズ『子供の科学★ミライサイエンス』が発行されています。本書はその第１弾で、パソコンやインターネットの仕組み、利用の注意点等について書かれたたものです。「日本のインターネットの父」と呼ばれる村井純氏が監修者の一人となっています。大人が子どもに教えるために、また自身の入門編として読むのにもぴったり。AI やプログラミングについて書かれたシリーズ続編も注目です。

雑誌・新聞

今年度より購読を始める雑誌です。

『おそい・はやい・ひくい・たかい』
通巻101号 2018.5月号　Z/370.5/01

小学生ぐらいのお子さんがいる方にオススメの雑誌です。今の子どもたちが置かれている状況を知ることができます。大人が子どもにどう向き合えばいいのかのヒントが満載の雑誌です。

暑い夏を乗り越えるヒントがここに…。雑誌を読んで快適に夏を過ごしてみませんか？お役立ちの記事が載った雑誌をご紹介します。

『婦人之友』2018年８月　Z/051/F7
特集：夏の快適習慣

『サライ』2018.8　Z/051/S16
特集：高校野球わたしの名勝負／「銭湯」に涼む

『栄養と料理』2018.8月号　Z/596/E2
特集：その症状、貧血かも！／涼を呼ぶ食卓

『やさい畑』2018.初夏号　Z/626/Y1
特集：効果満点！夏野菜の超回復術

地域

『3.11霊性（れいせい）に抱かれて　魂といのちの生かされ方』東北学院大学震災の記録プロジェクト金菱清（ゼミナール）／編　新曜社　2018.4　LS369.31/K54/2

震災で受けた悲しみを受け容れ、のりこえていくという過程を、霊性という死者と生者のあわい（間）に着目したゼミの大学生らによって調査した事例が書かれています。

大きな災害に襲われたときに、若い世代がそれを形として残し務めとして継承していくことの大切さと、死者との向き合い方に地域の風習やしきたりというものが作用することを伝えています。

『被災地で生き方を変えた医者の話』小鷹昌明／著　あさ出版パートナーズ　2018.4　LS498.1/08/2

東日本大震災後に勤務していた大学病院を辞め、南相馬市立総合病院へ赴任した小鷹医師。２年間の医療支援程度の気持ちで被災地へ赴いた彼も、今年で７年目の年を迎えます。

野馬追参加をはじめとした地域文化とのかかわり、孤立男性の引きこもり防止活動「HOHP」、新たな産業の創出･･･縁もゆかりもなかった南相馬の地で、医師という枠組みに捉われない活動を展開していくうち、彼の生き方はどう変わったのか？　温かくも率直な文面から、彼と南相馬が過ごした６年間が鮮やかに滲みでる１冊です。